

平成19年度

# 県内遺跡発掘調査概要報告書

- 川南町・国営尾鈴農業水利事業  
[住吉B遺跡・大内遺跡・赤石遺跡]
- 宮崎市・県営経営体育成基盤整備事業 跡江2期地区  
[跡江地区遺跡]
- 宮崎市・経営体育成基盤整備事業 村内地区
- 都城市・一般国道10号都城道路  
[中原第1遺跡]
- 都城市・都城東環状線  
[梅北針谷遺跡]
- 都城市・国営都城盆地農業水利事業

2008.3

宮崎県教育委員会

# 平成19年度 県内遺跡発掘調査概要報告書

- 川南町・国営尾鈴農業水利事業  
[住吉B遺跡・大内遺跡・赤石遺跡]
  
- 宮崎市・県営経営体育成基盤整備事業 跡江2期地区  
[跡江地区遺跡]
  
- 宮崎市・経営体育成基盤整備事業 村内地区
  
- 都城市・一般国道10号都城道路  
[中原第1遺跡]
  
- 都城市・都城東環状線  
[梅北針谷遺跡]
  
- 都城市・国営都城盆地農業水利事業

2008.3

宮崎県教育委員会

## 例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が平成19年度に国庫補助金を受けて実施した、県内遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、文化財課主査吉本正典、同飯田博之、同日高広人が担当した。調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所・鹿児島営繕事務所・九州農政局尾鈴農業水利事業所・都城盆地農業水利事業所・宮崎地方裁判所・宮崎県都城土木事務所・小林土木事務所・西都土木事務所・日向土木事務所・宮崎県中部農林振興局・西諸県農林振興局・宮崎県教育庁学校政策課・関係市町村教育委員会及び同農政課等の協力を得た。
3. 本書の執筆は各調査者が行った。

## 目 次

1. はじめに	
2. 国営尾鈴農業水利事業（住吉B・大内・赤石遺跡）	2
3. 県営経営体育成基盤整備事業跡江2期地区（跡江地区遺跡）	14
4. 経営体育成基盤整備事業村内地区	18
5. 一般国道10号都城道路（中原第1遺跡）	20
6. 都城東環状線（梅北針谷遺跡）	25
7. 国営都城盆地農業水利事業	29

## 1. はじめに

宮崎県内では、各地で多くの各種開発事業が行われている。

県文化財課では、各開発事業に対する埋蔵文化財の保護を図るため、その調整の一環として、平成19年度及び20年度以降の事業対象地に係る試掘・確認調査を実施した。

本報告は、平成19年度に実施した試掘・確認調査の内、6事業8箇所調査結果について概要を報告するものである。

No.	事業名	遺跡名・所在地	調査期間
1	宮崎地方裁判所庁舎建設	旭2丁目遺跡・宮崎市	平成19年4月17日～18日
2	一般国道10号都城道路	中原第1遺跡・都城市	平成19年6月4日～5日
3	都城東環状線	梅北針谷・今町東原遺跡 都城市今町・梅北町	平成19年7月3日～5日 平成19年11月7日～9日 平成20年1月29日～30日 平成20年3月18日～19日
4	県道都城野尻線	野尻町	平成19年8月22日
5	国営尾鈴農業水利事業	住吉B・大内・赤石遺跡 ・川南町	平成19年8月20日～29日
6	経営体育成基盤整備事業	宮崎市	平成19年10月1日
7	一般県道木場吉松えびの線	吉松遺跡・えびの市	平成19年9月3日
8	国道219号交通円滑化事業 園元バイパス	次郎左衛門遺跡・西都市	平成19年10月9日～10日 平成20年1月25日
9	国営都城盆地農業水利事業	黒尾原・王子原遺跡 都城市	平成19年10月11日 平成20年1月31日
10	県営一般農道下大河平4期地区	桜野遺跡・えびの市	平成19年10月22日～23日
11	高鍋農業高校実習施設緊急整備 事業	高鍋城跡・高鍋町	平成19年11月21日～26日 平成19年12月12日
12	県営経営体育成基盤整備事業 跡江2期地区	跡江地区遺跡・宮崎市	平成20年1月15日
13	高速道周辺特別対策等事業市道 前田1号線改良	岡遺跡・日向市	平成20年1月17日

表1 平成19年度試掘・確認調査一覧

## 2. 国営尾鈴農業水利事業（住吉B・大内・赤石遺跡）

尾鈴地区では、農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事務所において、大内ファームポンド及び大内調圧水槽、赤石・鶴戸ノ本調整水槽建設の3箇所の工事が計画されている。いずれも周知の埋蔵文化財包蔵地（住吉B遺跡、大内遺跡、赤石遺跡）に所在しているため、この3箇所については確認調査を実施した。

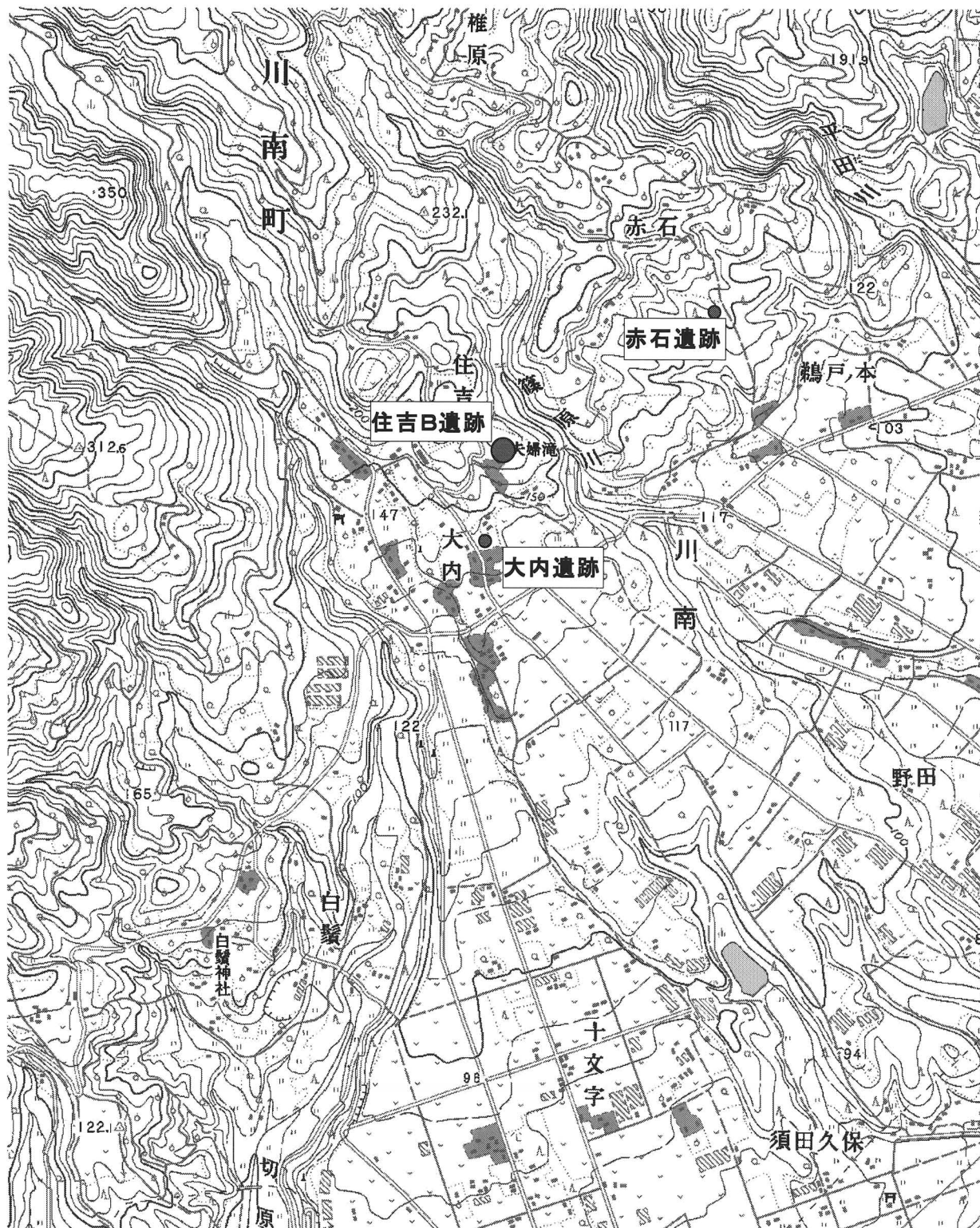


図1 遺跡位置図(S=1/25,000)

## 2-1 住吉B遺跡（大内ファームポンド）

- (1) 調査期間 平成19年8月20日(月)～8月23日(木)
- (2) 調査場所 児湯郡川南町大字川南字住吉 25953-2 外
- (3) 調査対象面積 7,490 m<sup>2</sup> (確認調査面積 約222 m<sup>2</sup>)
- (4) 調査結果

事業対象地は上面木山から派生する丘陵の南東側緩斜面（標高約182m～170m）に位置し、北側を平田川の支流篠原川、南を小丸川の支流切原川に挟まれている。現況では段々状に畑地が形成されており、川南町の市街地をはじめとする平野部を眺望できる。また地権者の話では、約30年以上も前にこのように造成されたとのことであり、南東部に形成されている谷も、現在よりもかなり手前に入り込んでいたそうである。

確認調査は、計26箇所のトレンチを設定し、重機及び人力による掘り下げを行った。調査の結果、トレンチ3及びトレンチ20で焼石が、トレンチ12、トレンチ15、トレンチ21で土器や石器が、トレンチ16で土坑が、トレンチ25で土坑や土器等、計7箇所のトレンチで遺構や遺物が確認されている。

そのうちトレンチ15ではV層中で焼礫（17点）とともに剥片1点が、トレンチ21でもV層中で縄文時代早期の土器（条痕文土器）スクレイパーや剥片（頁岩）、焼石（約20点）が出土している。またトレンチ25ではV層上部で縄文を有する土器（縄文時代早期後葉）や剥片（ホルンフェルス製）が出土し、土坑2基以上検出されている。土坑は約1.3m以上でトレンチ北側外へ延び、南東側ではもう1基と重複している。埋土には炭化物や焼土粒が多量に入ることから、炉穴の可能性が考えられる。なおトレンチ16でもやはり炭化物や焼土粒が多量に含んだ埋土を持つ土坑（2基以上?）が確認されている。

トレンチ3では焼礫が出土しているが（地表から約0.35m下）、その隣のトレンチ4のトレンチでは0.8m下でⅢ層（アカホヤ火山灰層）が確認されていることから、この部分は谷部にあたり、焼礫については流れ込みの可能性が高い。またトレンチ12では、V層中で土器片が出土しているが、平面的に土層が4層以上認められることから、かなり傾斜が急であることが窺い知れる。トレンチ20は焼石1点のみ出土で周辺のトレンチでは遺物等は確認されていない。

以上のことから全体的に遺物の出土が希薄なものの、土坑が確認されており、未調査範囲でも確認される可能性が高いため、調査対象面積7,490 m<sup>2</sup>のうち、2段及び3段目の畑地（網掛け部分、約2,250 m<sup>2</sup>）については事前の発掘調査（本調査）が必要である。

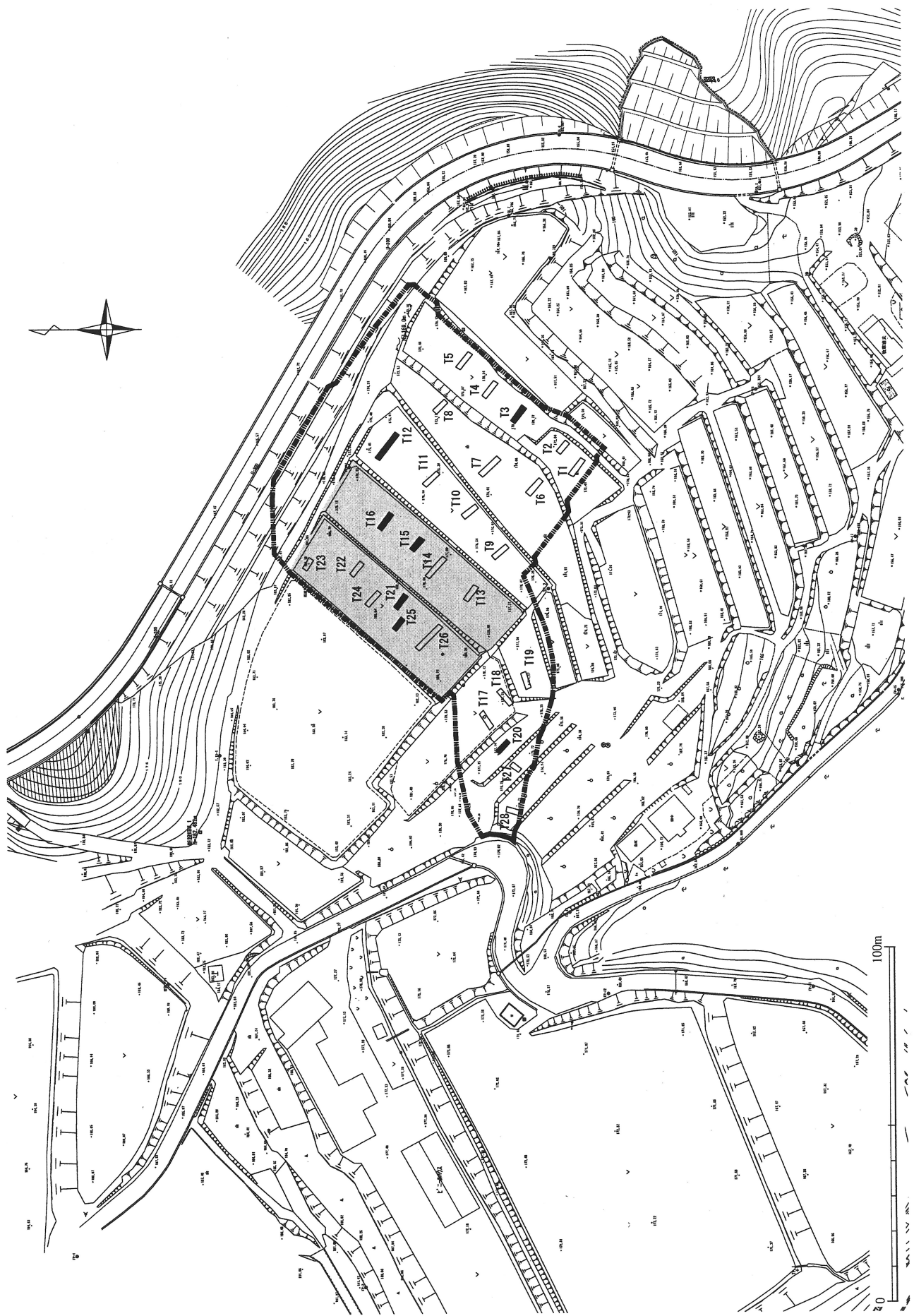


図2 住吉B遺跡トレンチ配置図 (S=1/1,500)

基本

I a	表土	
I b	造成土など	
II	黒色土層	
III	アカホヤ火山灰層	III'…アカホヤ火山灰二次堆積層
IV	黒色土層	
V	暗褐色土層	
VI	暗褐色土層	V層よりも明るく、粘性が強い。褐色になる部分もあり。 VI'層…A T風成層ブロックを含む。
VII	A T風成層	
VIII	褐色土層	部分的に礫層が認められる。
IX	明褐色土層	部分的に礫層が認められる。
X	赤褐色土	阿蘇4?、下位は礫層へ。
	↓礫層へ	

※▲…遺物出土、←遺構検出面、

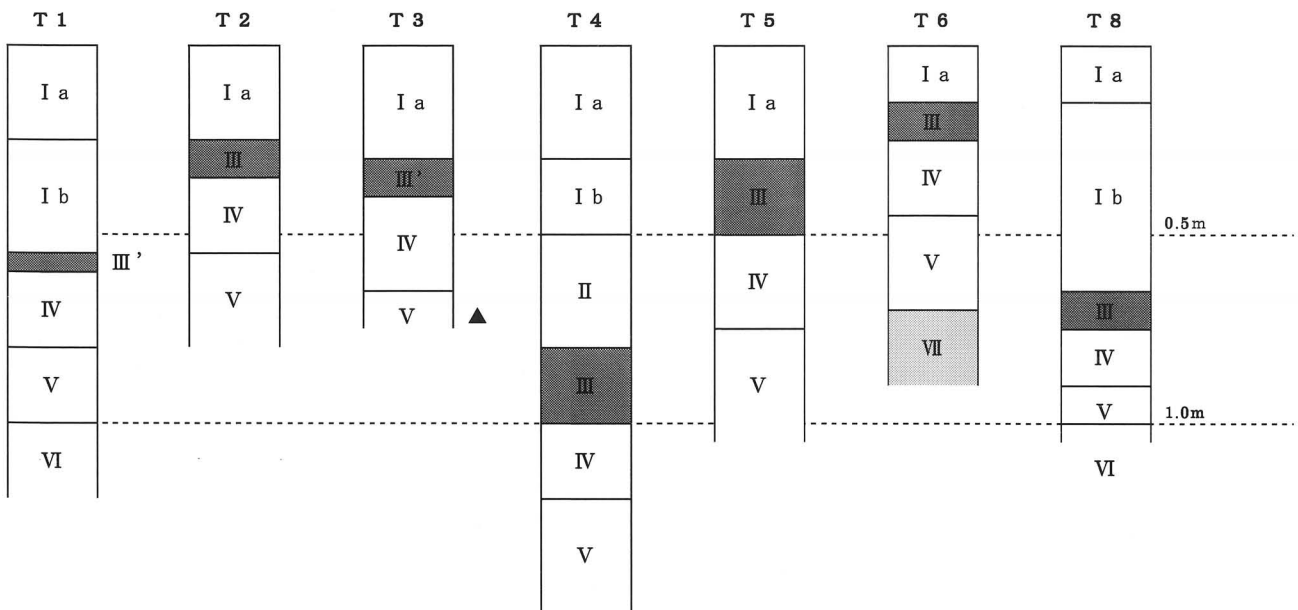


図3 住吉B遺跡の土層図1



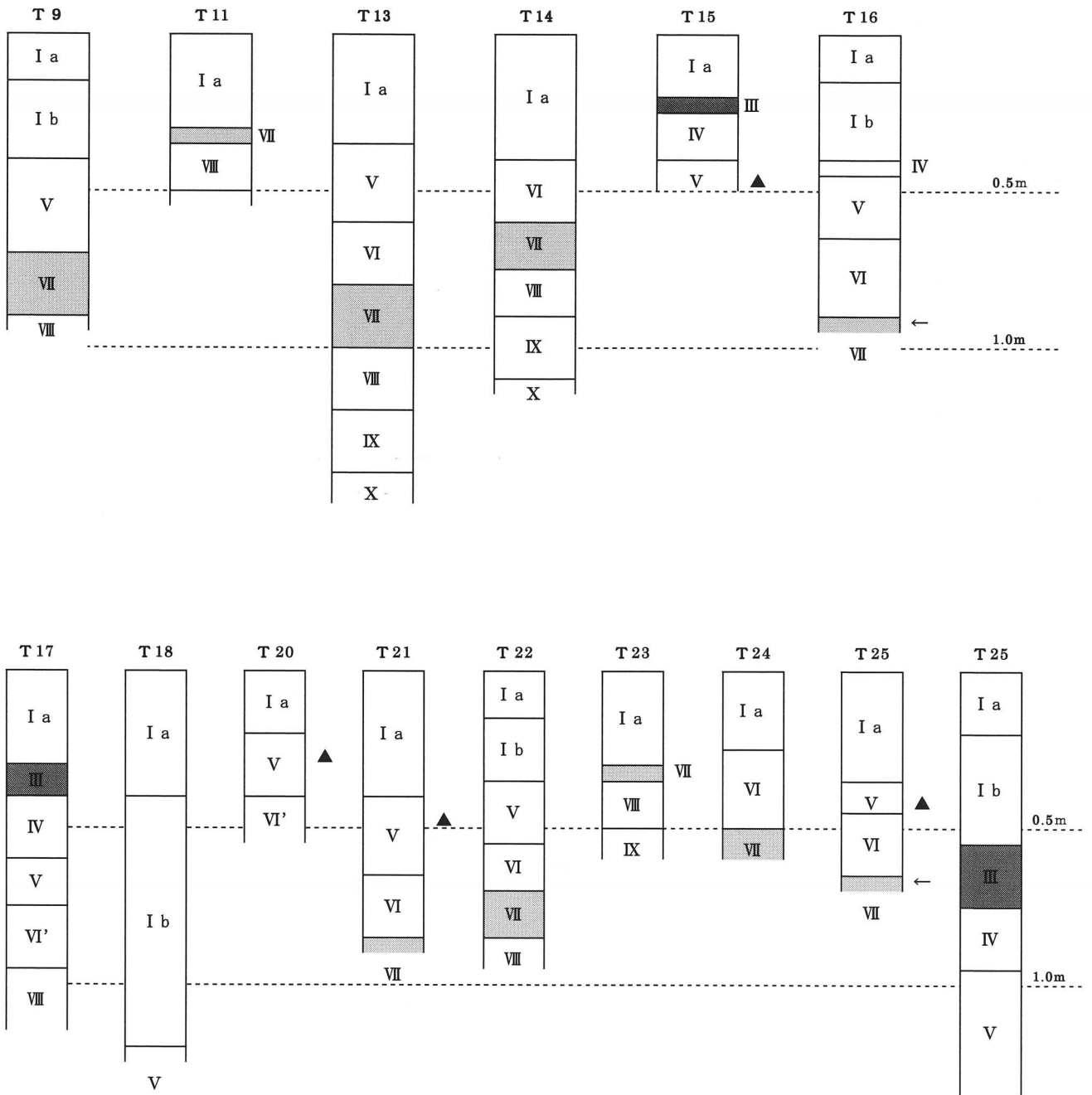


図4 住吉B遺跡の土層図2



写真1 遺跡遠景  
(東より)



写真2 重機によるトレンチ掘り下げ(東より)



写真3 確認調査の様子  
(北より)



写真4 トレンチ 16  
(東より)



写真5 トレンチ 21  
(東より)



写真6 トレンチ 25  
(東より)

## 2-2 大内遺跡（大内調圧水槽）

- (1) 調査期間 平成19年8月28日(火)～8月29日(水)
- (2) 調査場所 児湯郡川南町大字川南字丸尾 2783-3
- (3) 調査対象面積 460㎡（確認調査面積 約11㎡）
- (4) 調査結果

事業対象地は上面木山から派生する丘陵裾部（標高約145m）に位置し、住吉B遺跡とは直線で約300m、比高差約37mを測る。現況では竹林となっている。

確認調査は、竹が植林されたままのため、空白地を選んで、4箇所のトレンチを設定し、人力による掘り下げを行った。

調査の結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物が確認されていないことから事前の発掘調査は必要ないと考えられる。

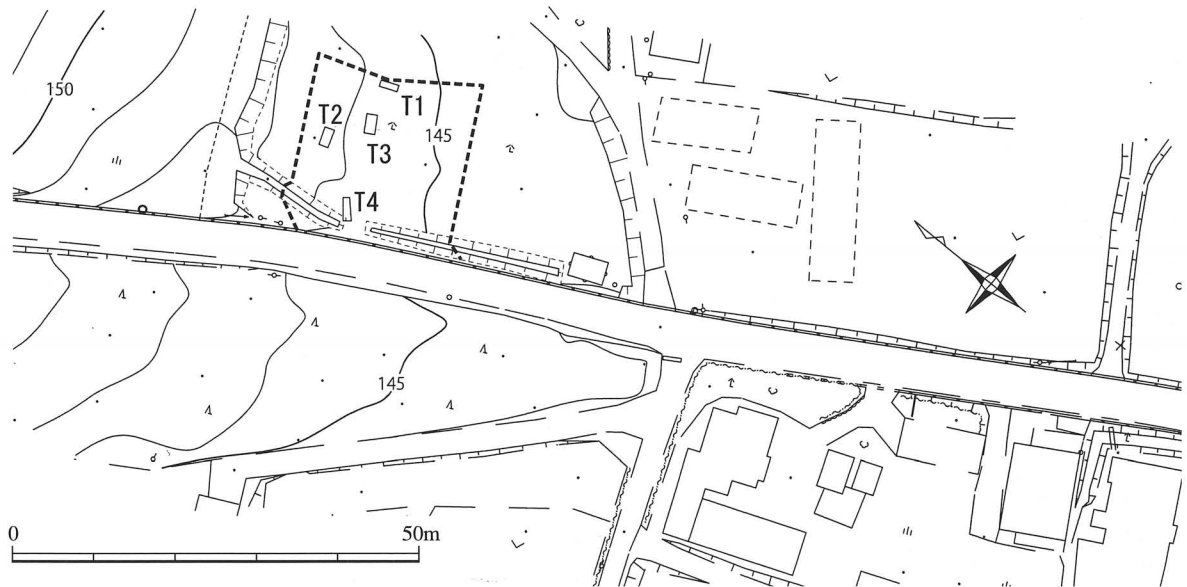


図5 大内遺跡トレンチ配置図 (S=1/1,000)

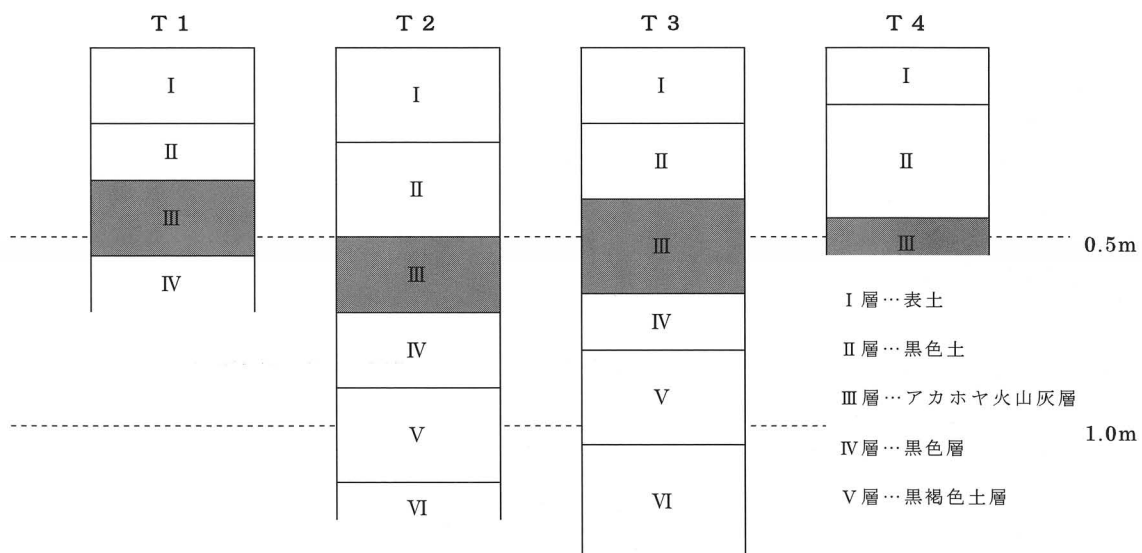


図6 大内遺跡の土層図



写真7 確認調査の様子  
(西より)



写真8 トレンチ3  
(東より)



写真9 トレンチ3の土  
層堆積状況

## 2-3 赤石遺跡 (赤石・鶺戸ノ本調整水槽)

- (1) 調査期間 平成19年8月24日(金)
- (2) 調査場所 児湯郡川南町大字川南字鶺戸ノ本 2984-3
- (3) 調査対象面積 290㎡ (確認調査面積 約14.8㎡)
- (4) 調査結果

事業対象地は上面木山から派生した丘陵の東側緩斜面(標高約155m)に位置し、北側を平田川、南を平田川の支流篠原川に挟まれている。現況は雑木林であり、その西側高所には茶畑が広がっている。また約200m南西下には鶺戸ノ本ファームポンドが所在する。

確認調査は、計5箇所のトレンチを設定し、重機により表土除去後、人力による掘り下げを行った。調査の結果、すべてのトレンチで遺物が出土している。そのうち、トレンチ3については、弥生中期の土器等が集中して出土しており、住居跡等の遺構が存在する可能性が考えられる。また、各トレンチでは縄文後晩期の可能性がある土器が出土している他、トレンチ1ではⅢ層中で縄文早期の土器(無文)や剥片、磨石等が、トレンチ4では、礫群中から旧石器時代の可能性のある剥片が出土する等、複数の時代の遺構や遺物が存在する可能性が考えられるため、調査対象面積である約290㎡の全面について事前の発掘調査(本調査)が必要である。

トレンチ名	主な遺構・遺物	備考
トレンチ1	縄文早期土器(無文)、船元式土器(中期、樹痕の影響か)、剥片、磨石等	
トレンチ2	縄文後晩期の土器等	
トレンチ3	弥生時代中期の甕や壺、磨製石鏃	遺構内か?
トレンチ4	剥片(旧石器)、縄文後晩期の土器、石錘等	自然礫からなる礫群?
トレンチ5	縄文後晩期の土器、石斧等	

表2 トレンチ別の遺構・遺物

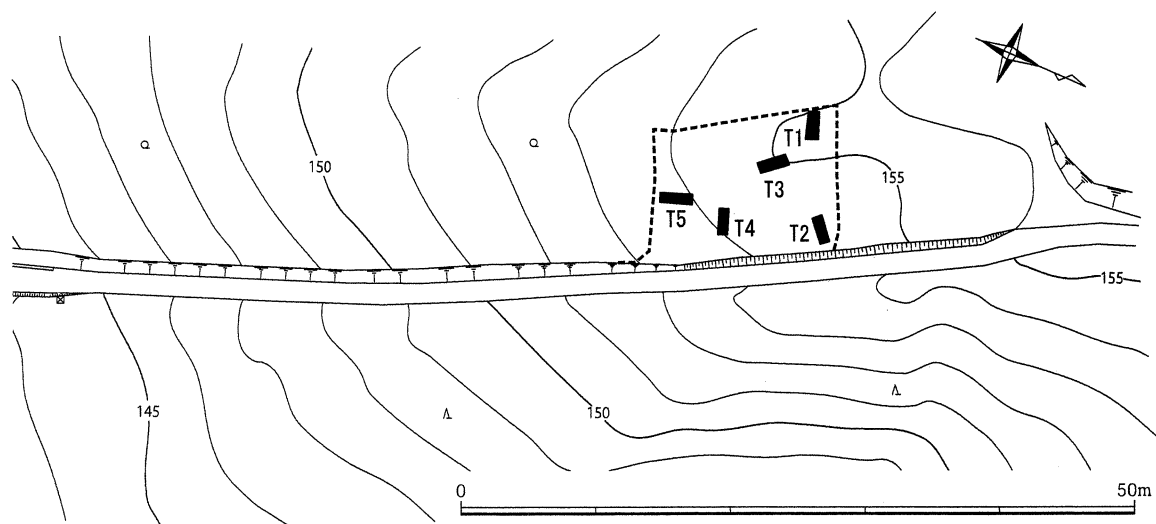


図7 赤石遺跡トレンチ配置図 (S=1/500)

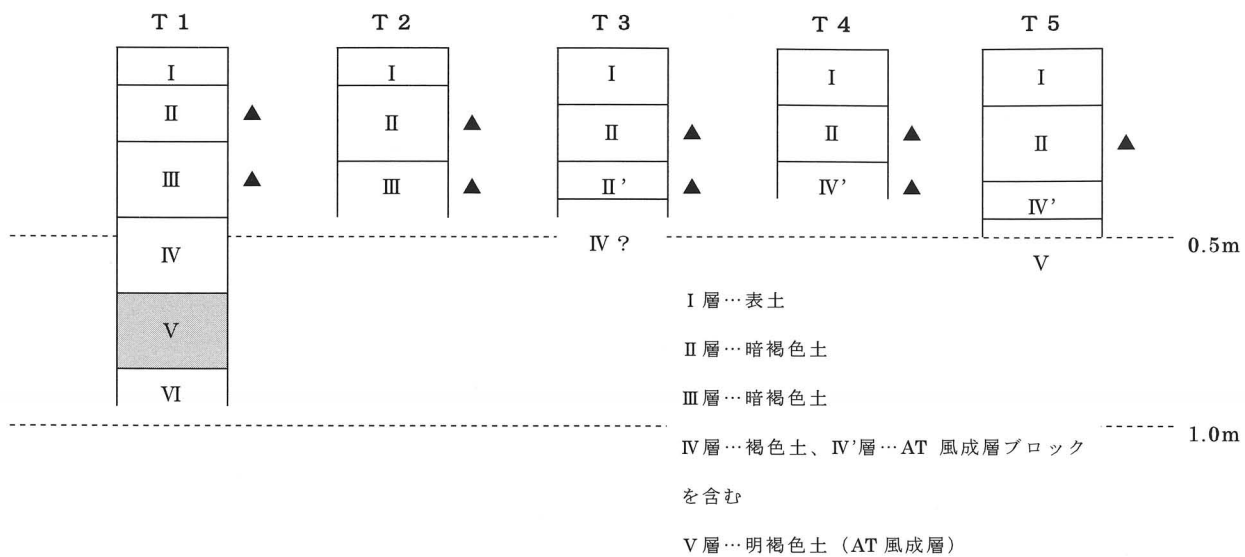


図 8 赤石遺跡の土層図



写真 10 遺跡近景  
(西より)



写真 11 トレンチ 1  
(南東より)



写真 12 トレンチ 1 土層  
(南より)



写真 13 トレンチ 3  
(南より)



写真 14 トレンチ 4  
(東より)



### 3. 県営経営体育成基盤整備事業跡江2期地区（跡江地区遺跡）

- (1) 調査期間 平成20年1月15日（火）
- (2) 調査場所 宮崎市大字跡江
- (3) 調査対象面積 5,000㎡

宮崎市大字跡江（生目の杜運動公園近く）で進められている標記事業に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地（「跡江地区遺跡」）への影響を判断する材料とするため、確認調査を実施したものである。

事業対象地については、すでに宮崎市教育委員会により検出杖（ボーリングステッキ）を使用した土層確認が行われているが、層の堆積が複雑な南西の山裾部については明確とはならなかった。今回の確認調査では、遺物包含層の確認に主眼をおき、人力による掘り下げを行った。

地権者の了解が得られた水田1区画の中に、1.5m×3mの試掘坑を2箇所設定し、表土（I層）を除去した。II層とした水田の床土以下については、広く掘り下げを行うと耕作に支障が生じるため、幅約25cmの溝状に掘削し、土層を確認した。

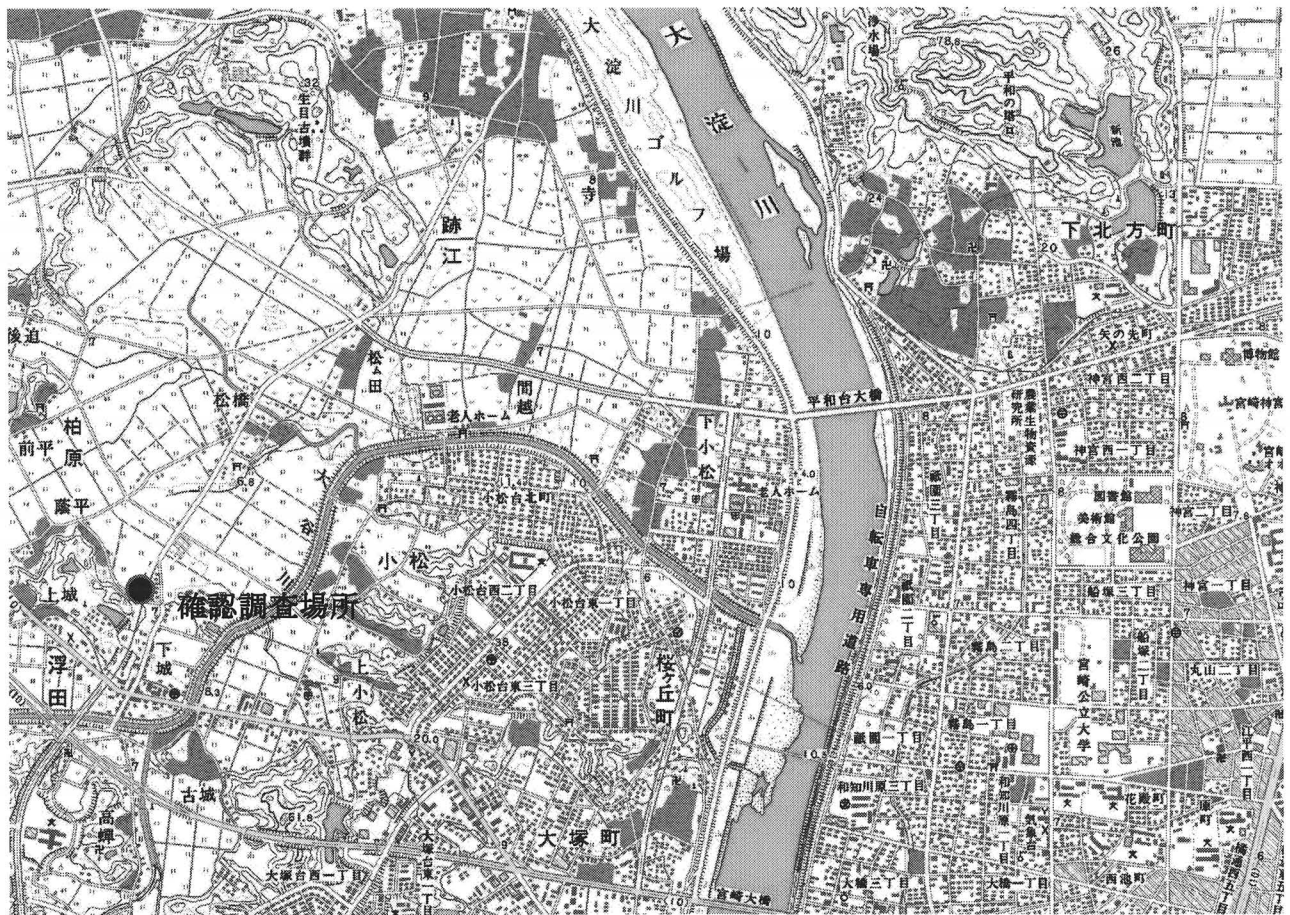


図9 遺跡位置図

北東側に位置するT1では、II層の下位に灰色の粘土層が続き、地表下70cmの深さでアカホヤ火山灰と目されるブロックを確認した。

T2ではII層の下位で高原スコリア粒を含む層（III層）が確認された。これは、平成17年度に本調査の対象となった遺物包含層であると考えられる。この層からの出土遺物はなかったが、I層中より土師器や染付の破片が計5点出土している。

2箇所でのみの調査であったため、詳細はなお不明だが、地点によって土層の堆積状況が異なること、一部、遺物包含層が存在することが判明した。調査地の南西は「照明院」と呼ばれる地で、石塚城跡があったとされる。当地には中世の遺構や遺物が包蔵されている可能性がある。

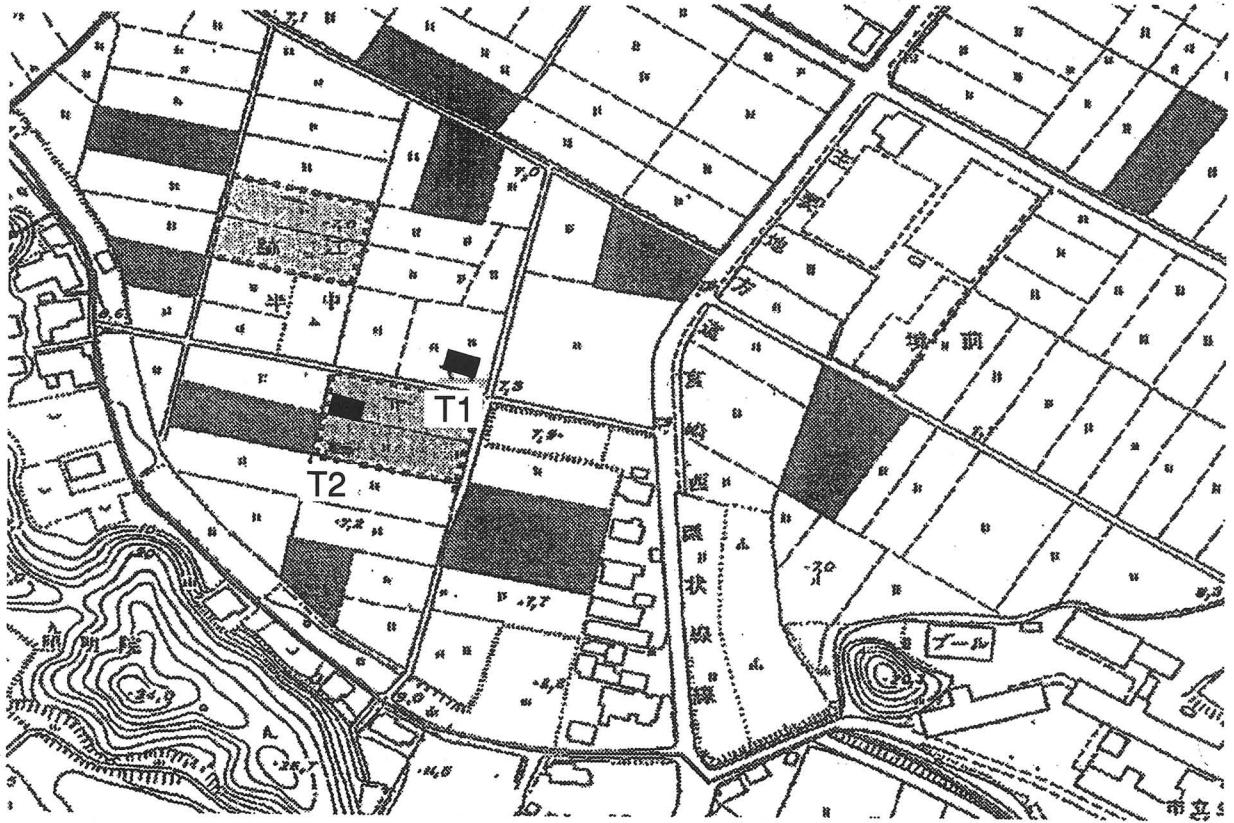
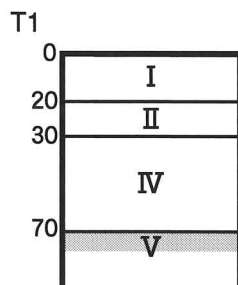


図10 トレンチ配置図

図2：基本層序



※数字は地表からの深さ（単位：cm）

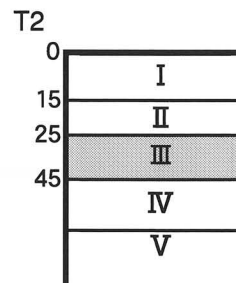


図11 土層柱状図

層	特徴
I	現耕作土。
II	灰褐色土。鉄分を含み、ところどころ赤褐色を呈する。固く締まる水田の床床。
III	淡い灰褐色土。黄色・黄白色の火山灰粒を含む。
IV	黒味の強い灰色粘土。塊状の鉄分を含む。遺物（土器片）1点出土。
V	白味がかった褐色土。アカホヤ火山灰層か。ただし層を成さない。

写真



写真15 調査対象地全景 及び作業状況



写真16 T1 完掘状況

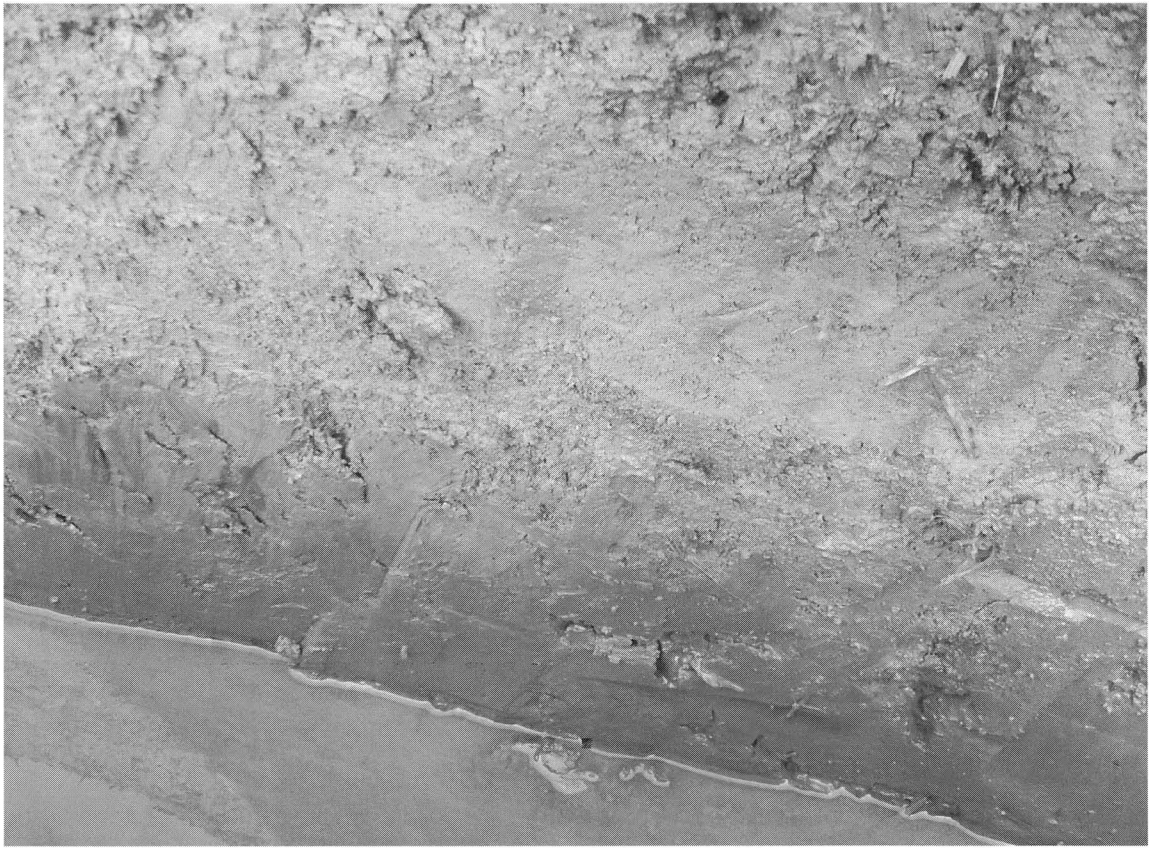


写真17 T1 層序



写真18 T2 層序

#### 4. 経営体育成基盤整備事業村内地区

- (1) 調査期間 平成19年10月1日(月)
- (2) 調査場所 宮崎市田野町甲
- (3) 調査対象面積 24ha
- (4) 調査結果

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地(青木遺跡)に隣接し、現況は水田や畑地となっている。標高約155mの扇状地状の緩斜面地である。

今回の試掘調査では、遺物包含層の有無の確認に主眼を置き、耕作に支障が生じないように、細い溝状の試掘坑を4箇所設定し、人力による掘り下げを行った。

その結果、1トレンチでは地表下90cm、3トレンチでは地表下65cmの深さでアカホヤ火山灰層が見られ、さらにその上位に黒褐色土(IV層)が堆積することが確認できた。2トレンチでは、このIV層が厚く、地表下130cmの深さでもアカホヤ火山灰層が現れなかった。

トレンチ幅が狭いため、それ以下の掘り下げは断念したが、下位にアカホヤ火山灰層が堆積している可能性が高い。IV層は遺物包含層であり、1トレンチ・2トレンチでは礫が出土したのみであったが、3トレンチより比較的多量の土器片が出土している。土器は特徴を捉え難いが、古墳時代から古代にかけてのものと推定される。

今回の調査はごく限られた面積のものであったが、特に河川に近い3トレンチ付近(北西側)で遺物が出土し、またアカホヤ火山灰層上面で遺構が検出される可能性が高い。

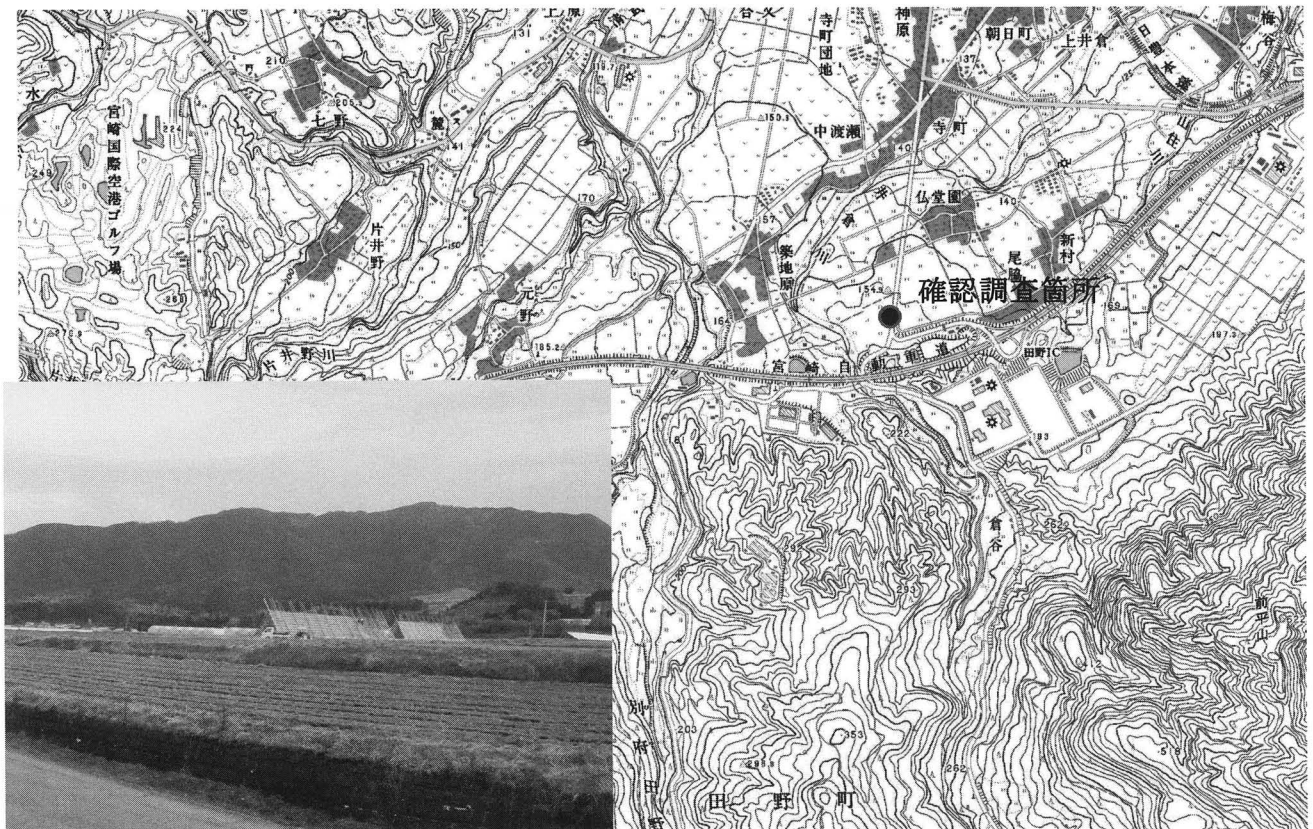


図12 調査箇所位置図と現地写真



## 5. 一般国道10号都城道路（中原第1遺跡）

- (1) 調査期間 平成19年6月4日（月）～5日（火）
- (2) 調査場所 都城市平塚町10094他5筆
- (3) 調査対象面積 6,500㎡
- (4) 調査結果

中原第1遺跡は、平成19年2月に確認調査を一部実施している。今回は、そのときに調査を実施できなかった6,500㎡を対象に調査を行った。

対象地に12本のトレンチを設定して重機により掘り下げを行い、御池ボラ層面とアカホヤ火山灰層面での遺構の確認を行った。

各トレンチでの確認作業の結果、9トレンチで土器片が確認されたが、他のトレンチでは遺物は確認されなかった。また、遺構は御池ボラ面、アカホヤ層面でも確認できなかった。

この結果、施工予定地は、遺構が確認されず、遺物の出土も非常にまばらな散布地であることが確認できたため、事前の本発掘調査は必要ないと判断された。

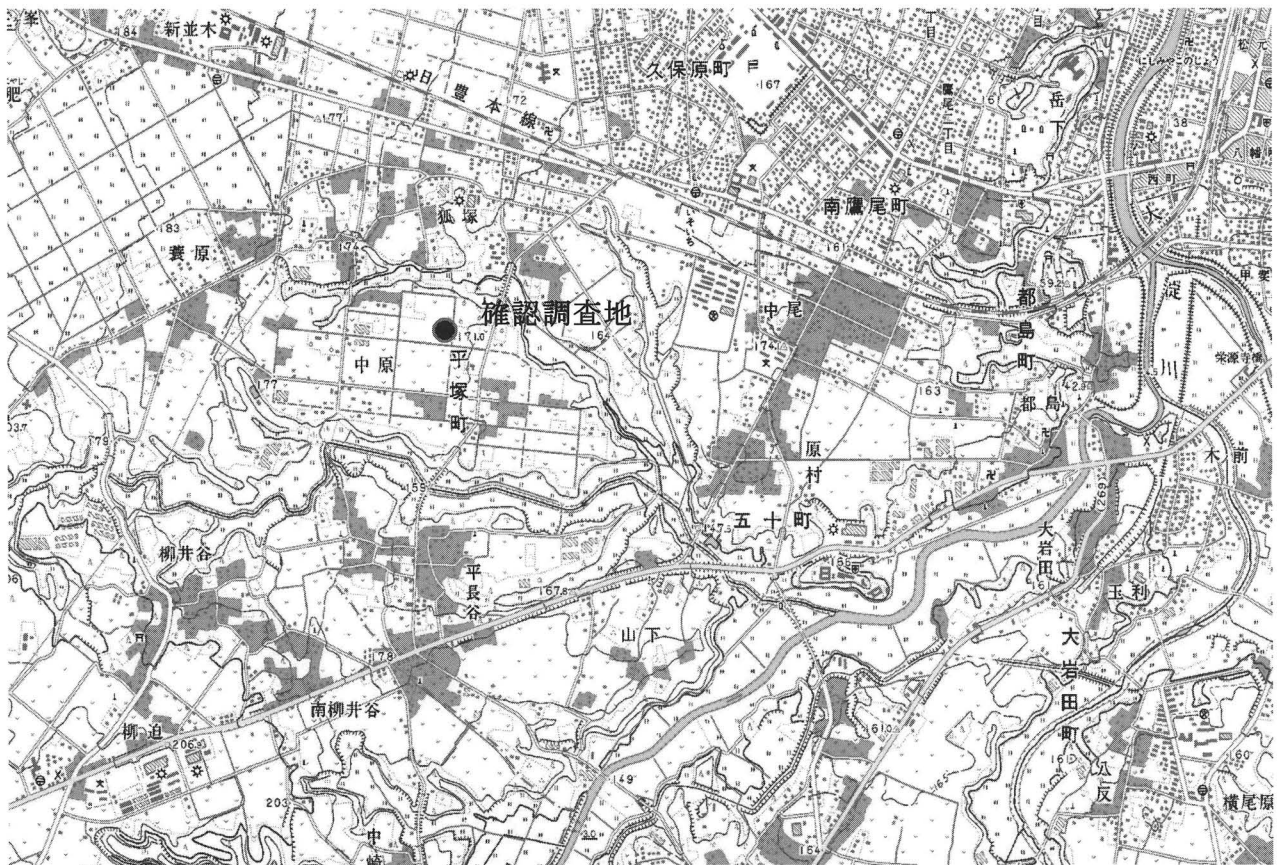


図14 遺跡位置図





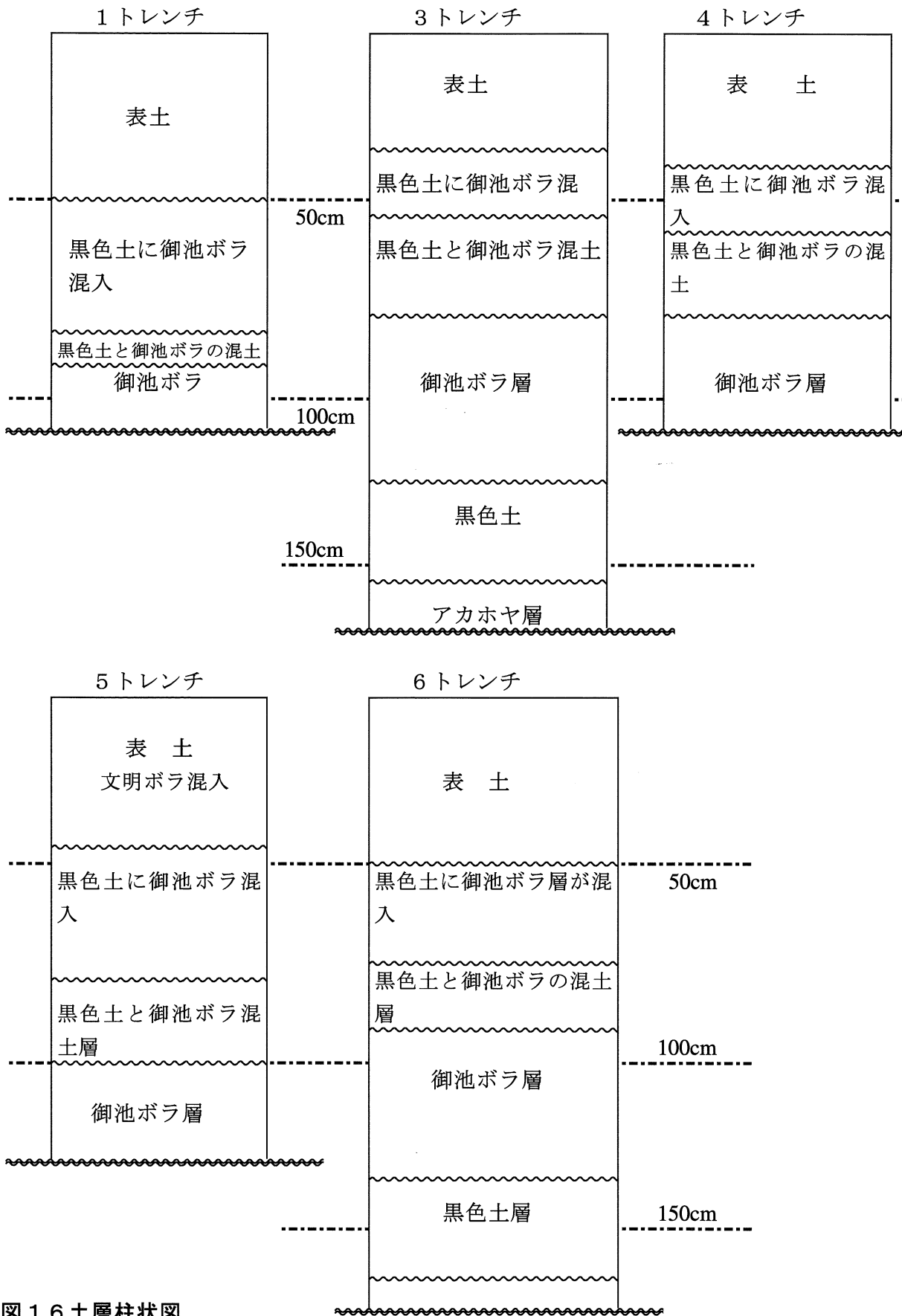


図 1 6 土層柱状図

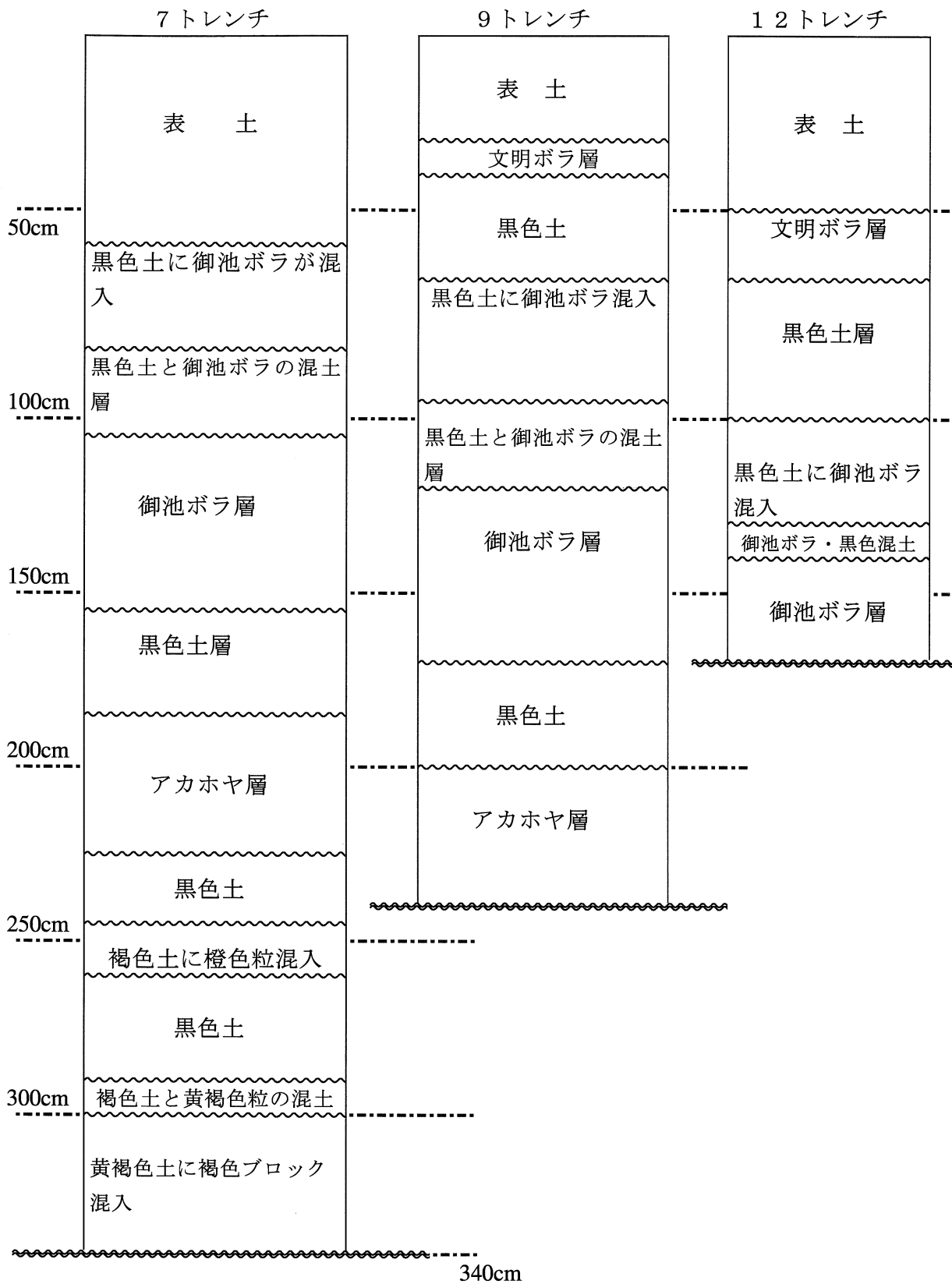


図 17 土層柱状図



写真 19 中原第一遺跡



写真 20 1 トレンチ

## 6. 都城東環状線(梅北針谷遺跡)

- (1) 調査期間 平成19年7月3日(水)～5日(金)  
平成19年11月7日(水)～9日(金)
- (2) 調査場所 都城市梅北町
- (3) 調査対象面積 16,500㎡
- (4) 調査結果

梅北針谷遺跡の確認調査は、用地買収の都合上、2回に分けて行った。

1回目は、平成19年7月に実施し、調査対象地に11本のトレンチを設定して、重機により掘り下げを行った。

結果、明確な遺構は確認できず、また遺物も中世の土師器片が少量出土したのみであった。

また、表土直下にシラス等が検出されたこともあり、原地形は起伏の差が激しかったものと考えられた。

2回目の調査は11月に実施し、7月実施以外の部分について行った。前回同様、明確な遺構は確認できなかったが、古代～中世にかけての遺物が集中して出土したトレンチがあり、その部分を中心に本発掘調査の必要があると判断した。

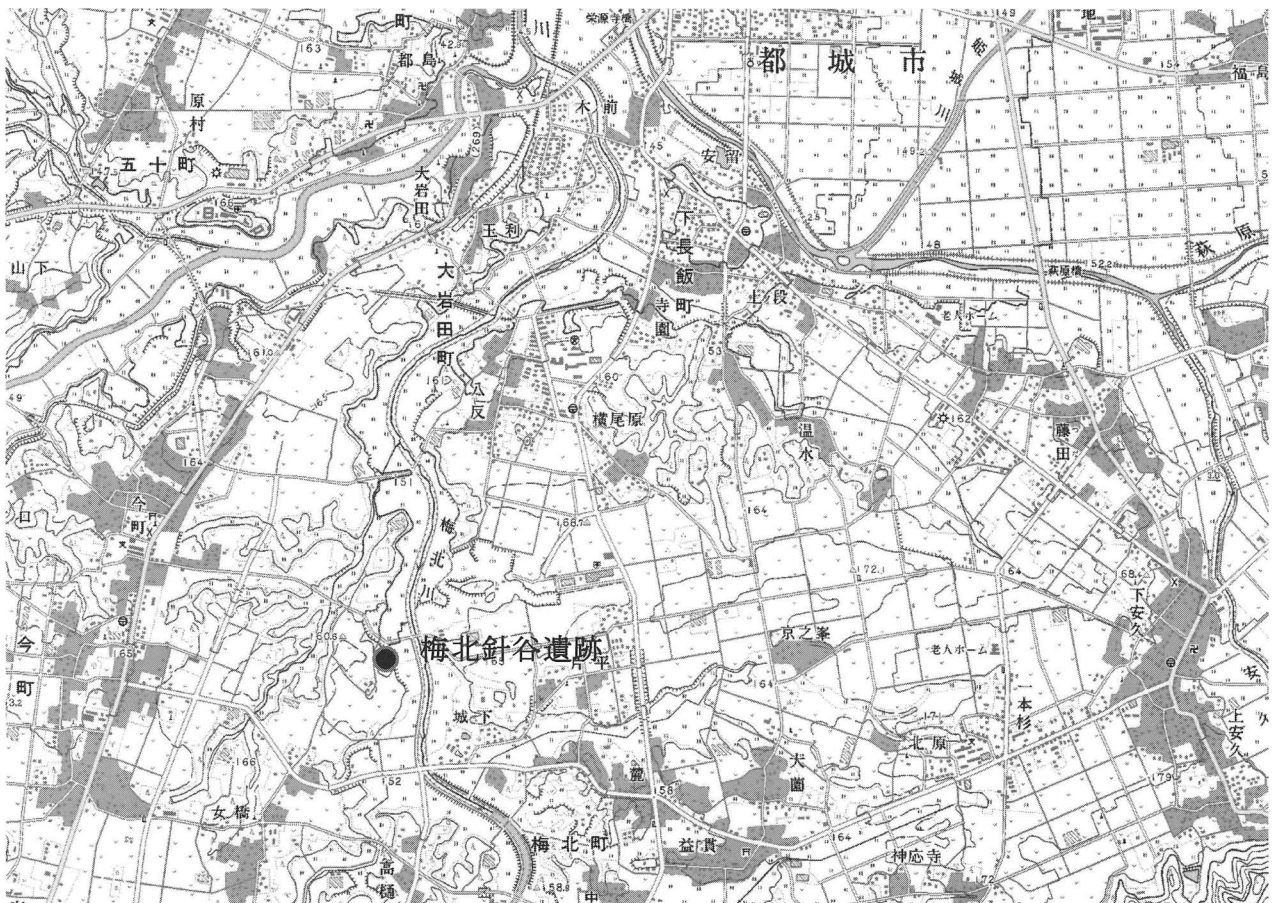


図18 遺跡位置図



図19 トレンチ配置図

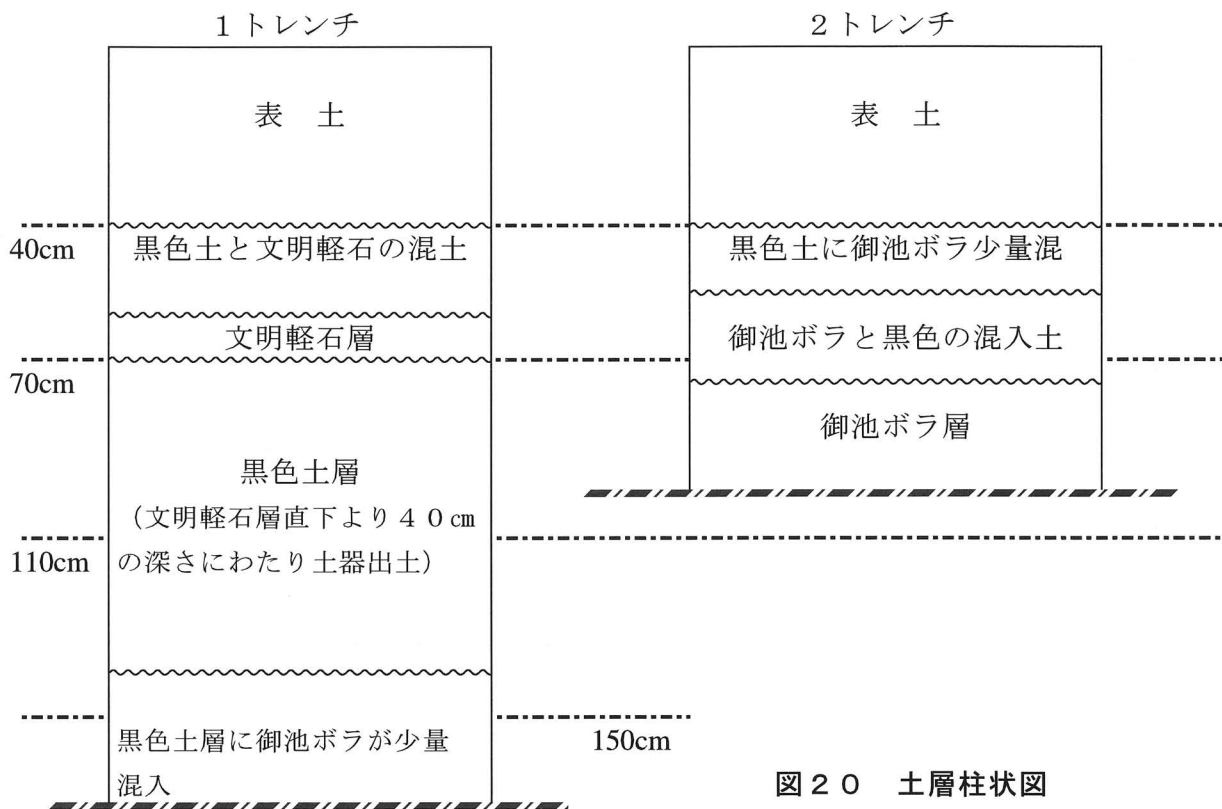


写真 2 1 調査開始前の現地状況 (7月)



写真22 1・2トレンチ設定箇所



写真23 土器出土状況





長尾下ファーム



図 22 トレンチ配置図

標準土層

I	表土及び耕作土
II	黒色土
III	黒色土に御池ボラ混入
IV	褐色土に御池ボラ混入
V	御池ボラ層
VI	黒褐色土

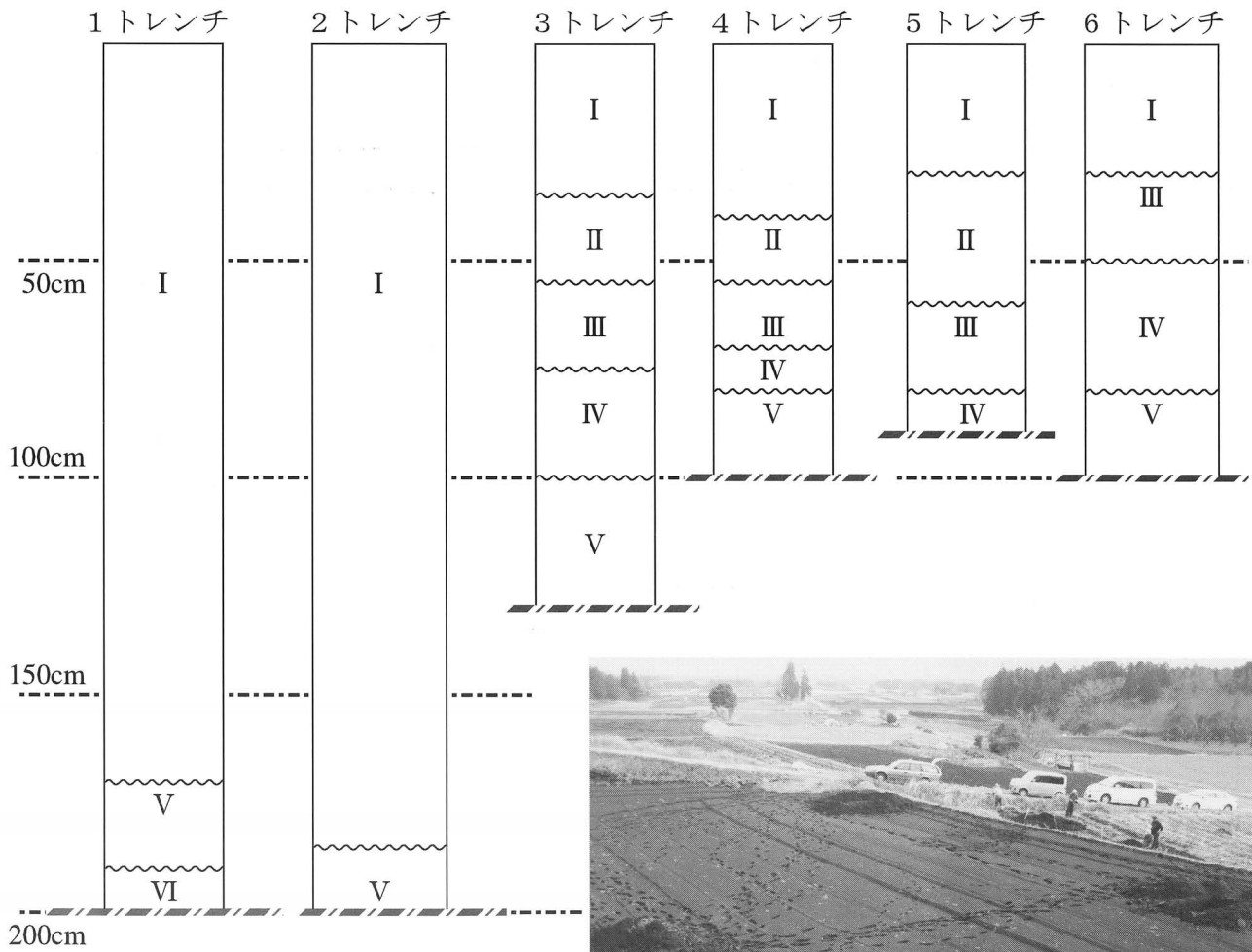


図 2 3 土層柱状図



写真 2 4 調査の状況

## 報告書抄録

書名	平成19年度県内遺跡発掘調査概要報告書
所収遺跡名	宮崎市・跡江 <sup>あとえ</sup> 地区遺跡 宮崎市・村内地区 都城市・中原第1遺跡・梅北針谷遺跡・長尾下地区 川南町・住吉B遺跡・大内遺跡・赤石遺跡
調査原因	宮崎県内の開発事業に伴う試掘・確認調査
発行機関	宮崎県教育委員会
発行年月日	2008年(平成20年)3月28日

### 平成19年度県内遺跡発掘調査概要報告書

2008年3月

編集：宮崎県教育庁文化財課

発行：宮崎県教育委員会

宮崎市橘通東1丁目9番10号

TEL0985-26-7251

印刷：(有)宮崎出版社